

短期日本語プログラム (NUSTEP) 2015年度事業報告

国際教育交流センター国際プログラム部門

松 尾 憲 暁

1. はじめに

留学生受入部門（2016年3月から国際プログラム部門に改称）では、1996年から半年または1年の短期交換留学プログラム（NUPACE）を実施してきたが、近年、海外協定校より数週間のプログラムの要望が高まってきたことを受け、2016年2月から2週間の日本語プログラム（NUSTEP）を開始した。

プログラムの実施にあたっては、2014年9月に国際教育交流センター、国際言語センター、国際学生交流課（現・学生交流課）からなるワーキンググループが立ち上がり、2015年4月にはNUSTEP運営委員会が設置され、準備を進めてきた。委員会のメンバーは、Matthew Linley, 松尾憲暁, 初鹿野阿れ, 徳弘康代, 渡部留美, 伊東章子, 城所佑委（以上、国際教育交流センター）、古谷礼子, 曾剛（以上、工学研究科）、井戸田満, 山本美穂（以上、学生交流課）である。

本稿では初回にあたる2016年春季のプログラムについて報告する。

2. 期間と参加者

2016年春季のプログラムは、2月4日から18日まで2週間にわたり実施した。NUSTEPは、名古屋大学と学術交流協定を締結している大学に所属している、中級レベル（日本語能力試験N3～N2相当）の日本語力を有する学生を対象としているが、2016年春季のプログラムでは10大学から全28名の学生が参加した。学生の内訳は表1の通りである。

3. 目的

NUSTEPは2週間の滞在を通じ、日本や名古屋大学に興味を持ってもらい、将来の交換留学や大学院進学

表1 参加者内訳

韓国	ソウル国立大学 1名, 木浦大学 2名
台湾	国立政治大学 3名, 国立中正大学 1名
中国	華中科技大学 2名, 吉林大学 10名 ハルビン工業大学 3名
ベトナム	ホーチミン市法科大学 1名
オーストラリア	西オーストラリア大学 4名
フランス	ストラスブール大学 1名

につなげることを目的としている。そのため、学術性を重視している。このことを踏まえ、以下の3点をプログラムの目標に設定した。

- ①日本語を使って日本の文化・社会についての自分の考えを発表する。
- ②体験や交流を通じ、日本の文化・社会を理解する。
- ③名古屋大学の教育や研究を体験する。

4. 内容

プログラムは、(1) 日本語 (2) エクスカーション、(3) 専門講義/ラボ見学、(4) 日本文化体験、(5) トヨタ産業技術記念館の見学、(6) キャリア探求ワークショップ (7) 名古屋大学学生との交流会、(8) ホームステイ、から構成されている。

(1) 日本語

NUSTEPは本学での単位を付与することはできないが、協定校で単位認定が行えるように1コマ90分×16回（修了試験含む）で日本語の授業を構成し、成績評価を行う。評価は出席20%、授業中の課題30%、修了試験（最終発表）50%とし、3分の2以上の授業への出席を必要としている。

授業は本学国際言語センターでも教えられている椿由紀子先生と加藤淳先生にご担当いただいた。プログ

表2 全体スケジュール

日程	午前	午後
2/4	入寮	
5	開講式, オリエンテーション	クラス分け, 大学紹介, 歓迎会
6	エクスカージョン (瀬戸・犬山)	
7	休み	
8	日本語:名古屋と中部地域	専門講義・ラボ見学
9	日本語:歴史・服装文化 【発表1】専門講義報告	日本文化体験(着付け・書道)
10	日本語:モノづくり, 人づくり	トヨタ産業技術記念館見学
11	日本語:最終発表準備 【発表2】見学報告	キャリア探求ワークショップ
12	日本語:トピックディスカッション インタビュー準備	名古屋大学学生との交流会
13・14	ホームステイ(希望者のみ) / 休み	
15	日本語:【発表3】インタビュー報告	防災講義, 減災館見学
16	日本語:最終発表準備	自主学習
17	最終発表	修了式, 歓送会
18	退寮	

ラム初日の午後に、作文と面接試験からなるクラス分けテストを実施し、その結果を踏まえ、全体をAクラス(12名)とBクラス(16名)の2クラスに分けた。

クラスは異なっても、扱うトピックは同じであり、段階的にアカデミックスキルが習得できるように授業が組まれている。また、午後の講義や活動と有機的に結びつくようなコースデザインとなっており、学生は午前の日本語の授業で学んだことを午後の講義や活動で深め、翌日の授業で日本語を使って報告するというサイクルを繰り返した。

授業では教師の授業を聞くだけの受動的な学習ではなく、グループ学習などの活動を多く取り入れ、主体的に学習に取り組むことを促した。さらに、3コマのみではあるが、日本人の学生ボランティアにも参加してもらい、意見交換をする活動も行った。

プログラム最終日には、期間中に学んだことの中から各自でテーマを選択し、自身の考察を加えたプレゼンテーションを行った。

＜最終発表会のタイトルの一例＞

- ・不登校とフリースクール
- ・日本の夫婦同姓と別姓
- ・名古屋とパースの交通のシステム

(2) エクスカージョン

愛知県の歴史・文化・社会について学ぶため、瀬戸と犬山を訪問した。瀬戸では、愛知県が誇る陶器文化



グループワーク



招き猫への絵付け

を学ぶため、招き猫ミュージアムを見学し、その後、陶芸教室にて招き猫への色付け体験を行った。犬山では、犬山城とその城下町を散策後、ものづくり文化の根源に触れるため、城下町にあるからくり展示館を見学した。展示館では職員の方のご厚意でからくり人形の実演や人形制作の様子を見ることができた。

(3) 専門講義／ラボ見学

本学の実際の教育・研究を体験してもらうために、本学教員による専門講義と学内の研究施設の見学を2回実施した。

1回目は文系と理系に分かれて実施した。文系はDylan MCGEE先生(国際言語文化研究科)による「漫画の歴史」の講義。理系は曾剛先生(工学研究科)による「車載電子情報システム」の講義を受講した後、同先生と未来社会創造機構・人とモビリティ社会の研究開発センターを見学した。見学の際は、青木宏文先生(未来社会創造機構)にご説明いただいた。

2回目は文系理系の学生合同で減災館を訪問し、Emanuel LELEITO先生(工学研究科)による防災に関する講義を受講。その後、同先生にご説明いただき



着付けの実演

ながら、館内を見学した。

(4) 日本文化体験

日本文化の体験として着付けと書道を体験した。着付けは、駒 Kimono creat の加藤かつ子先生に、男女1名ずつの学生代表への着物の着付けを実演と合わせ、着物文化についてご講義いただいた。その後、学生全員に浴衣の着付けを行ったが、その際、駒 Kimono creat の有志の皆様、河嶋春菜先生（国際教育交流センター海外留学部門）にもご協力いただいた。

書道は、徳弘康代先生（元・国際言語センター、現・国際教育交流センター国際プログラム部門）にご指導いただいた。漢字圏の学生が多かったため、漢字ではなく、ひらがなを題材として取り上げた。手本を見ながら筆運びを練習した後、自分の好きな文字を書くことにも挑戦した。

(5) トヨタ産業技術記念館の見学

愛知県のものづくり文化について学ぶため、その代表とも言えるトヨタの関連施設であるトヨタ産業技術記念館を訪問した。館内には各セクションに解説してくれるスタッフが配置されているが、学生はただ説明を聞くだけでなく、事前の日本語の授業で準備していた質問をスタッフに投げかけながら、館内を見学して回った。

(6) キャリア探求ワークショップ

自身の価値観を明確にして、今後のキャリアについて

を考えるため、ビジョンマップという活動を、船津静代先生（学生相談総合センター）に実施いただいた。授業のフレームについて講義の後、学生は山積みとなった雑誌類の中から自身の興味のある部分を切り抜き、画用紙に貼っていき、出来上がった作品をグループの仲間に説明するという活動を行った。

(7) 名古屋大学学生との交流会

本学日本人学生15名との交流会を行った。まず、グループに分かれ、自己紹介を行った後、アイスブレイクとして NUSTEP のティーチングアシスタントが考案したジェスチャーゲームを行い、場が和んだところで、留学生が自身で設定したテーマに関して日本人学生にインタビューした。インタビューの後は自由に交流する時間を設け、気軽に多くの人と話してもらった。

(8) ホームステイ

日本の実際の生活を体験してもらうため、国際教育交流センターアドバイジング部門の協力のもと、1泊2日のホームステイを実施した。ホームステイへの参加は任意であったが、20名の学生が参加した。

事前にメールにて自己紹介のメールを送った上で、13日（土）の対面式で各ホストファミリーと顔を合わせた。その後は各家庭に分かれ、それぞれの時間を過ごした。ホストファミリーの中には、最終発表会を見に来てくださったご家族もいた。

5. プログラムの評価と今後の課題

終了時に実施したアンケート結果から、本プログラムが好評であったことが伺えた。その中で、様々な「人との交流」について印象に残ったという学生が多かったということは特筆すべき点である。2週間という短期間でどのような交流の機会を作っていくか、ということは課題ではあるが、今後も時期・方法を見直した上で多くの機会を提供していければと思う。また、「NUSTEPに参加して、交換留学生や大学院生として、名古屋大学で勉強することを考えるようになった。」という項目に対して、9割以上の学生が同意していることは、NUSTEP が、将来の長期的な留学への動機付けとして機能しうることを示唆している。

一方で、初回の実施を経て、今後の課題も浮き彫り

になった。特に、選考時の語学力の審査の徹底については、参加学生のプログラムでの学習効果や満足度にも影響するため、今後の見直しが求められる。また、アンケートでは「課題が多かった」「休みがなく、疲れた」という声が多く、実際、プログラム後半に体調を崩す学生もいた。幸い大きい病気等にはつながらなかったが、「与えすぎないようにする」ことも留意すべき点の一つであろう。それから、インターネット環境についても改善の必要性を感じた。今回、日本語の授業でもインターネットを活用する活動を取り入れたが、「つながらない」「途中で止まる」ことが度々生じ

た。教室の外でも、学内の無線LANネットワークは場所によってつながりにくいため、今回モバイルルーターを3台用意していたが、そのような対応にも限界がある。短期滞在の留学生にとって、どこでも気軽にアクセスできるインターネット環境を準備することは満足度にも大きく影響すると思われる。

今後、NUSTEPは年2回以上、実施していくことになるが、本プログラムが多くの協定校の学生に名古屋大学のことを知ってもらうきっかけとなり、将来的な留学につながればと思う。